

# 資源循環組合議会 (2017/2/22)

## を傍聴して

古澤省吾(青梅市)

武蔵野市議の山本ひとみさんの質問はスリリングなものでした。

ああいう権威ばった世界もあるのだな、とそれなりに議場の雰囲気質問と回答のやりとりの臨場感を楽しめました。

組合の事務局長のもっともらしい説明、『焼却灰にある放射性物質のほとんどは塩化セシウムであります。これは1,370度にて焼成されるので、それは分解(気化)して製品には残ることはありません』一字一句正確ではないかもしれませんが、さすが優秀な官僚！実にもっともらしく説得力あるのです。しかし、分解(気化)したセシウム分子(原子?)はどこに行くのだろう？『だったら、大気中への放出は問題ないのかよ！』と大沢さんが怒鳴ったのも仕方ないことだと思います。

もう一つ、まだまだこの国の地方政治も捨てたもんじゃないと希望がもてたことと、やっぱり駄目だこりゃ、のドラマもありました。

山本ひとみさんの質疑中に、ついでにエコセメント関連で、もう一つの追加の質問をしたい、と発言を求めたところ、議長さんは、『本来は予定外は困りますが、仕方がない。手短にお願いします』と。

しかし、すかさず、ちょっと強面の議員さんが、議長を強くののしるのです。『議長！そんなルール違反だよ。そんなこと認めるのは議長権限の逸脱だ！』『そうだ！、そうだ！』の少なくとも5名以上の同調する野次囃子。

それでも議長は、余裕ある態度を終始崩さず、『まあ、そうは言っても認めても良いではないですか。』そうしたら、議場は益々、怒号の渦。それでも議長は、表面はやんわりと、でも一歩も引かじと頑張る。しかし、議場はさらに殺気立ってきます。そこで、甘利TPP大臣そっくりの、理論家のような方が、『山本議員の質問は明らかに本議会の取り決めのルールを無視したもの。議長はかような勝手を認めるべきではない！』と理路整然、堂々たる意見陳述。でも、そんなに立派な発言かな？

ああ、やっぱりこの国は、東京の多摩地区とはいえ、アジア農村的停滞。出る杭は打たれる。目立つ奴は叩かれる。異質なものはよってたかって排除する。その点で、この時の議長殿は、なかなか立派なりべラルの闘士。まあ、いまだき、立派な態度の政治家もいらっしやることが判って、それは一つの良い風景を見せてもらいました。さらに彼のような方が議長に任じられるというのも、未だどこかで世間の良識たるものが働いているのでしょうか。世の中、まだまだ捨てたものではないですね。